

令和5年度私立幼稚園教育水準向上支援事業費補助金  
実施報告書

日本女子体育大学附属みどり幼稚園

事業分類：幼児教育の内容・方法の改善

実施内容：【環境・ビオトープ】

保育環境として自然に触れる機会を増やせたらと、17年前にビオトープを造設した。しかし、年数も経ち老朽化も進んでおり、水の濁りやヘドロもあるため、日々の教職員の手入れだけでは維持できない状況となっていた。

そこで、今回の補助事業を活用しビオトープを再整備することとした。依頼した業者は、ビオトープや池、水の施工や水槽・アクアリウムなどを手掛けており、水のプロフェッショナルとして経験豊富なため、植物・生物のことも詳しく、教職員も勉強しながら作業工程を見守った。夏の暑い時期より、少し寒いくらいの方が生き物・植物には良いとのアドバイスもあり、改修の時期は12月となった。

園児は、改修中の作業を見てビオトープが新しくなることを知り、楽しみにしながらも池の中の魚やエビがどうなるのか心配し、日々見守る様子があった。

改修整備を終え、保育環境と安全面の向上を図り、園児が安全に自然を感じられる環境を整えることができた。また、環境が整ったことにより、保育内容を充実させることができ、これからの教育的効果も上げられると、大いに期待できる。新しくなったことで、園児の興味・関心が増し、水草や草木、また循環ポンプを設置することにより、今まで無かった水の音の流れ、響きを感じることも出来るようになり、子ども達はもちろん、保護者や教職員の心と体の癒し効果にも繋がっている。保護者からは「リゾート地のような声も聞かれた。保護者から、自宅で育てたみゆきメダカという体外光を持つ品種をいただき、放流会を行った。昔からいるメダカと一緒に泳ぐ姿に、園児は、「光るメダカがいるね」と大喜び。また「寒い時には何も見えないよ」「水が流れてきれいだね」とそれぞれの思いを言葉で表現し、興味を持ってビオトープの側に集まる様子が多くみられた。

今まで以上に自然と触れ合い、季節を身近に感じるなど、自然への関心を高める教育活動を実施することができ、また感性豊かな心の成長を育むなど幼児教育の質の向上を促進した。

今後もこの都会の真ん中でも、園児にとって四季を感じ生物の成長・植物の生長に触れられる大事な場所の1つとなるよう保育を実践し、生き物の観察に適した環境を子ども達に与え、友達とのコミュニケーション能力も計り、感性豊かな心の成長がみられるよう努めていきたい。

【整備前の様子】



シートが破れ、泥や砂で水深が浅くなっている

ビオトープ改修

期間：令和5年12月20日（水）～25日（月）

